

経営学部生への文章作法指導――「総合演習」における教材作成の試み――

著者	竹越 美奈子
雑誌名	東邦学誌
巻	39
号	1
ページ	101-112
発行年	2010-06-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1532/00000216/

経営学部生への文章作法指導 ——「総合演習」における教材作成の試み——

竹 越 美奈子

目 次

1. はじめに
2. 教案
 - 2.1 さまざまな文章
 - 2.2 ゼミ志望理由票の書き方
 - 2.3 授業の感想の書き方
 - 2.4 論述式テストの書き方
 - 2.5 授業の課題レポートの書き方
3. おわりに
4. 資料編（教材）

1. はじめに

本学経営学部では2001年の学部新設以来、1年生必修の「基礎演習」の指導内容にレポート作成などの文章指導を組み込んできた。しかしながら、「基礎演習」へのニーズは年々、履修指導からマナー指導などの生活面まで多岐に渡るようになり、文章の指導まで手が回らなくなりつつあるのが現状である。そこで、筆者は2009年度に2年生必修「総合演習」を担当するにあたって、文章作法の指導をテーマとして取り上げた。これに対して一次募集だけで20人の学生が志望してきた。この人数は一次募集の中で最も多く、このテーマへの学生の関心の高さがうかがわれた。

このテーマを扱った教材は多い。たとえば『平成20年度基礎ゼミ教案集』（名古屋外国語大学外国語学部基礎ゼミ委員会）などはさまざまな分野の多様な名文に触れることができるという意味で大変すぐれた教材である。しかしながら、外国語学部の学生向けに作られたこの教材は、経営学部の学生には使いにくいというのが率直な感想であった。本学経営学部学生の書いた文章を見るにつけ、まずは大学生が大学生活で書かなくてはならない身近な文章を題材にして、基本的な作法を知ることが重要であると日頃から感じていたからである。そこで今回、自作の教材を使った演習指導を試みた。

2009年度前期の「総合演習Ⅰ」は、以下のスケジュールで実施した。

- 第1回 さまざまな文章：なにが学術的文章か
- 第2回 ゼミ志望理由票の書き方（1）：他人に好感を持たれる文書とは？
- 第3回 ゼミ志望理由票の書き方（2）：他人に好感を持たれる文書とは？
- 第4回 授業の感想の書き方：感想は何のために書くのか
- 第5回 論述式テストの書き方（1）：学術的文章の構成
- 第6回 論述式テストの書き方（2）：学術的文章の基本ルール
- 第7回 論述式テストの書き方（3）：学術的文章でよく使われる表現
- 第8回 授業の課題レポート（1）：注と引用と参考文献の作法
- 第9回 授業の課題レポート（2）：コンピュータを使ったレポート作成

- 第10回 レポートのための文献資料収集 (1) : テーマの見つけ方
- 第11回 レポートのための文献資料収集 (2) : 参考文献の探し方
- 第12回 レポートのための文献資料収集 (3) : 参考文献の探し方
- 第13回 個人面談 (1)
- 第14回 個人面談 (2)
- 第15回 Overflow Week

このうち、第10回、第11回、第12回は図書館が実施している資料検索ガイダンスに参加したため、オリジナルの教材はない。以下、筆者が作成した教案をトピックごとに記す。使用した教材は4. 資料編 (教材) を参照されたい。

2. 教案

2.1 さまざまな文章

2.1.1 ねらい

演習第1回である。教員、ゼミ員の自己紹介、セメスタースケジュール、成績評価の説明の後で、次回からの内容の予告を兼ねて実施した。目的は、文章にはさまざまなタイプがあり、それぞれにルールがあることを学ぶことである。

2.1.2 授業の手順

用意するもの：第1講教材 (4. 資料編にあり)

(1) 作業1

第1講教材を配布し、適宜学生を指名して作業1の問いに答えさせ、解説を加える。解答は板書する。次回の予告をして終了。

2.2 ゼミ志望理由票の書き方

2.2.1 ねらい

本学経営学部では、2年次必修科目である「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」を履修する際に、各学生が志望理由票を提出して書類選考を受けるというシステムをとっている。志望理由票は、選考の際の重要なものであるが、その書き方は学生によってまちまちである。決まった書き方はないとも言える。しかしながら、正式に提出する書類であるので、ある程度の常識は必要である。志望理由票は、3年次の「専門演習」を履修する際にも提出が義務づけられているので、学生は「また書かなくてはいけない」と思っているし、今年の分を書いた記憶がまだ残っているはずである。このような理由で、まずゼミ志望理由票の書き方をトピックとして取り上げた。

今回はゼミ生20人全員の了解を得たうえで、全員が実際に提出した志望理由票のコピーを名前を伏せたうえで配布した。その結果、総合演習Ⅰの中で学生が一番関心をもって取り組んだトピックとなった。学生は、他の学生の成果物を目にする機会が少ないし、他の学生の志望理由票と自分の書いた志望理由票を読むことによって、自分の書いたものを客観的に見ることができ、多くの文章の中で好印象を与える文章とはどのようなものであるかということが実感できたのではないかと。さらに、教員がいきなり投票箱を持ってあらわれたことで、何が始まるのといった期待をもったと思うし、自分の書いたものが投票の対象になっていることで関心をもてたと思う。

2.2.2 授業の手順

2回に分けて実施した。

<1回目>

用意するもの：第2講教材（4. 資料編にあり）、全員が実際に提出した志望理由票のコピー（名前は消してある）、小さな紙片3枚×人数分、投票箱

(1) 導入：作業2（30分）

教員は、教材p.1と全員が実際に提出した志望理由票のコピー（名前は消してある）を配布する。学生は、よいと思ったものを3枚選ぶ。自分の書いたものを選んでよい。教員が小さな紙片を3枚ずつ配り、学生は選んだ志望理由票の番号を書いて、投票箱に入れる。教員は学生を2人選挙管理委員に指名して、開票作業に当たらせる。黒板に志望理由票の番号を書いて、開票しながら「正」の字を書いていく。得票が多かったものはどのような点がよかったのか、みんなで考える。

(2) 演習と解説：全体（30分）

教員は教材p.2-5を配布する。教員が（または学生を指名して）教材を読みながら、学生を指名して練習1と練習2を答えさせ、適宜解説を加える。

(3) 実習：個人指導（30分）

各学生が実習1にとりくむ。教員は机間を循環して、実習1が終わった学生に教材p.6（「志望理由票構想シート」）を配布する。各学生は実習2から実習4に取り組む。実習4まで終わった学生は順次、「志望理由票構想シート」を提出する。教員は、時間があればその場で添削やコメントをする。

<2回目>

用意するもの：前回学生が提出した「志望理由票構想シート」（必要に応じて添削やコメントを加えておく）、「志望理由票」（本学経営学部で使用しているもののコピー、下書き用と清書用各1枚×人数分）、小レポート用紙

(1) 実習：個人指導（時間は学生による）

教員は前回学生が提出した「志望理由票構想シート」（必要に応じて添削やコメントを加えておく）を返却する。学生は、前回配布した教材p.5「実習5. 下書きをしよう」に取り組む。下書きができた学生は、教員に提出。教員はその場で添削、コメントをして「清書用の志望理由票」を渡す。学生は順次、「清書」を提出する。

(2) 次回の準備（5分）

「清書」を提出した学生は「小レポート用紙」に今日の授業の感想を自由に書いて提出する。

2.3 授業の感想の書き方

2.3.1 ねらい

授業の中で、「感想」（教員によって、「コメントカード」、「感想レポート」、「ミニレポート」など呼び方はさまざま）の提出を求められることは多い。できるだけ身近で具体的なトピックを用いて、文章の書き方の指導をしたいという理由から、「授業の感想」をとりあげた。ノートの取り方についての内容も含んでいる。今回は、前回の演習内容のノート例を「資料1」として配布し、それに基づいて授業の感想を書くという実習を課したが、自分でとったノートをもとにして感想を書くという形でもよいと思う。

2.3.2 授業の手順

用意するもの：前回学生が提出した「授業の感想」（内容によって、今日の授業でわかったことについて書いてあるもの...Ⅰ、わからなかったことについて書いてあるもの...Ⅱ、もっと知りたいことについて書

いてあるもの……Ⅲ、その他、意見、感想など……Ⅳの記号をつけておく)、

第3講教材(4. 資料編にあり)、資料1(前回の演習のノート、筆者が作成したもの)

(1) 導入: 作業3(30分)

教員は教材p.1を配布し、前回学生が提出した「授業の感想」を返却する。「感想」に記入されたⅠ～Ⅳの意味を聞かれてもこのときは答えない。適宜解説を加えながら、全体で「作業3」に取り組む。

(2) 演習と解説: 全体(30分)

教員は教材p.2-3、資料1を配布する。教員(または学生)が教材を読みながら、学生を指名して練習3、練習4を答えさせ、適宜解説を加える。

(3) 実習: 個人指導(30分)

教員は小レポート用紙を配布する。学生は各自実習7に取り組んで、小レポート用紙に「第2講の感想」を書いて順次提出する。

2.4 論述式テストの書き方

2.4.1 ねらい

大学の試験でよく出題される論述式をトピックとしてとりあげ、筆記具、書く量、文末表現などの基本ルールと構成について考える。導入部の作業で漫画やドラマの例をあげたことにより、興味をもって参加する学生の姿が見られた。反面、作業がわかりにくく、切る場所を間違える学生も続出した。

2.4.2 授業の手順

3回に分けて実施した。

<1回目>

用意するもの: 第4講教材(4. 資料編にあり)、のり、はさみ

(1) 導入: 作業(30分)

教員は教材p.1-2と別紙1を配布する。学生は各自「作業」に取り組む。教員は適宜学生を指名して、黒板に正解を書かせ、解説を加える。

(2) 演習と解説: 全体(30分)

教員は教材p.4-6を配布する。教員(または学生)が教材を読みながら、学生を指名して練習5を答えさせ、適宜解説を加える。

(3) 実習: 個人指導(30分)

学生は各自実習8に取り組んで、「論述式テスト構想シート」を書いて順次提出する。

<2回目>

用意するもの: 前回学生が提出した「論述式テスト構想シート」(必要に応じて添削やコメントを加えておく)、小レポート用紙

(1) 実習: 個人指導(時間は学生による)

教員は前回学生が提出した「論述式テスト構想シート」(必要に応じて添削やコメントを加えておく)を返却する。学生は、前回配布した教材p.5「実習9」に取り組む。下書きができた学生は、教員に提出。教員は余裕があればその場で添削、コメントをする。

<3回目>

用意するもの: 前回学生が提出した「下書き」(必要に応じて添削やコメントを加えておく)、小レポート用紙

(1) 実習：個人指導（時間は学生による）

教員は前回学生が提出した「下書き」（必要に応じて添削やコメントを加えておく）を返却する。学生は、前回配布した教材p.5「実習10」に取り組む。清書ができた学生は、教員に提出。教員は余裕があればその場で添削、コメントをする。

2.5 授業の課題レポートの書き方

2.5.1 ねらい

論述式テスト（テスト時間中に書くもの）とレポート（作成するのに時間を要するもの）との違いについて、注、引用、参考文献の表示の仕方についてのルールを学ぶ。具体的には、前回学んだ論述式テストの解答に、注、引用、参考文献を加えて、レポートを作成する。

2.5.2 授業の手順

2回に分けて実施する。

<1回目>

用意するもの：第5講の教材（4. 資料編にあり）、前回学生が提出した「論述式テストの清書」（必要に応じて添削やコメントを加えておく）、引用のための資料（『海外ミステリー事典』の該当箇所のコピー）

(1) 導入：作業5（30分）

教員は教材p.1を配布する。学生は各自「作業」に取り組む。教員は適宜学生を指名して、正解を答えさせ（板書してもよい）、解説を加える。

(2) 演習と解説：全体（30分）

教員は教材p.2-5を配布する。教員（または学生）が教材を読みながら、学生を指名して練習6を答えさせ、適宜解説を加える。

(3) 実習：個人指導（30分）

教員は前回学生が提出した「論述式テスト清書」（必要に応じて添削やコメントを加えておく）を返却、引用のための資料を配布する。学生は、実習11に取り組む。学生は順次「注の内容と参考文献のリスト」を教員に提出。教員は余裕があればその場で添削、コメントする。

<2回目>（コンピュータ教室を使用）

用意するもの：前回学生が提出した「注の内容と参考文献のリスト」（必要に応じて添削やコメントを加えておく）、愛知東邦大学レポート様式のサンプル

(1) 実習：個人指導（時間は学生による）

教員は前回学生が提出した「注の内容と参考文献のリスト」（必要に応じて添削やコメントを加えておく）を返却する。学生は、前回配布した教材p.4「実習12」に取り組む。できた学生は順次、コンピュータ印刷をして教員に提出。教員は余裕があればその場で添削、コメントをする。

3. おわりに

以上は筆者が作成した教案である。

このように、まず型を教えることに批判もあるだろう。文章を書く上で最も重要なのは内容だ、学問的な素養がなくてはならない、型を学ぶと個性がなくなる、など。しかしながら、筆者の考えでは、内容を深めることは短期間では無理であるし、学問的な素養はこれから専門課程でしっかり身につけてほしい。また、個性的な文章を志向するにしても、基本を知った上であえて基本から外れるのと、基本を知らないのとでは違っただろう。実際、いくつかの基本ルールを学んでから学生が書き直した文章は、格段に読みや

すいものとなった。

今回の試みはまだ1年目である。今後も継続して文章指導を行って、よりよい指導ができるよう努めたい。

4. 資料編（教材）

Schedule

総合演習（竹越）2009 Spring Semester

22nd, May, 2009

Week	Date	Topic	Theme	Assignment	
1	4/10	ガイダンス	授業の計画と成績評価 (何が学術的文章か)		
2	4/17	ゼミ志望理由票	他人に好感を持たれる文書とは?	構想シート	
3	4/24			下書き、清書	
4	5/1	授業の感想	感想は何のために書くのか?	授業の感想 (B6 解答用紙)	
5	5/8	論述式テスト	学術的文章の構成	構想シート	
6	5/15		学術的文章の基本ルール	下書き (B5 解答用紙)	
7	5/22		何が学術的文章か、学術的文章でよく使われる表現	清書 (B5 解答用紙)	
8	5/29	授業の課題レポート	注と引用と参考文献の作法	下書き (A4 原稿用紙)	
9	6/5 B202		コンピュータを使ったレポート作成	清書 (コンピュータ印刷)	
10	6/12	自由課題レポート	テーマの見つけ方	構想シート [テーマ]	
11	6/19 図書館		参考文献の探し方（書籍・論文篇）a	構想シート [参考文献]	
12	6/26 図書館		参考文献の探し方（書籍・論文篇）b	構想シート [参考文献]	
13	7/3		休講（出張のため）		
14	7/10		レポート作成実習	構想シート [構成]	
15	7/17		レポート作成実習	レポート	

補講日: 後に連絡

成績評価: 出席点60点（4点×15回）+提出物40点

実習5 下書きをしよう

各自が作成した「志望理由票構想シート」をもとにして、「下書き用紙」に鉛筆で下書きをしましょう。自分が一度書いた志望理由票に「志望理由票構想シート」に書いた材料を加えるだけでも、一から書き直しても構いません。書くときには以下のことに注意しましょう。

- ・<志望の理由>と書いた行には書かない。次の行から書き始める。
- ・必ず最後の行まで書く。
- ・2～3段落にする。
- ・段落の始まりは必ず1字空ける。
- ・自信のない漢字、言葉は必ず辞書で確認する。(全体の評価が大きく左右されます。)*「下書き」を提出*

実習6 清書をしよう

下書きを見ながら黒インク(万年筆かボールペン)で丁寧に書きます。間違えたら修正液(修正テープ)などで直します。3カ所以上間違えたら全部書き直すのが無難です。*「清書」を提出*

まとめ 「ゼミ志望理由」の書き方

筆記用具は?	
書く量は?	
文末表現は?	
段落は?	
一人称は?	
下書きは?	
注意点は?	

志望理由票構想シート

記入日	年 月 日	年 月 日
氏 名		
(1) 本 論	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>	
(2) 結 論	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>	

第3講「授業の感想」の書き方と活用法
— 感想は何のために書くのか? (教員が読みたい感想とは?) —

作業3 授業の感想にさまざまなタイプがあることを知ろう。

1. 第2講の感想を自由に書いて下さい。
2. 各自が書いた感想にI～IVの記号をつけて、集計して返却します。
3. 書かれた感想で一番多かったのはどのタイプか、I～IVの記号の意味は何か考えて線でつなぎましょう。

I	・もっと知りたいこと
II	・わかったこと
III	・感想、意見
IV	・わからなかったこと

キーワード 愛知東邦大学2009年度シラバスから

感想文
コメントカード
感想レポート
ビデオ感想
毎回の感想
毎回のミニレポート
講義の都度に行うリアクションペーパー
当日のテーマにそった小レポート
毎授業後に提出する授業内容の要約
毎回の授業で行うショートレポート
毎回のミニレポートによる出席点

授業の感想の基本 自由に、でも自分のために書こう!

授業の感想は、あくまで「感想」ですから、正解も間違いもありません。自分の感じたことを自由に気楽に書いて構いません。

ところで、教員はなぜ授業の感想を書かせるのでしょうか。実は、授業の感想を書いて提出することは、教員の側に大きなメリットがあるのです。本講では、自分のために授業の感想を書くことを勧めます。せっかくなので、その日の授業の復習として、のちのちテストやレポートの役に立てましょう。授業終了後の1分でできるので、感想を提出しない授業でも自発的に書くことを習慣にしたいものです。

練習3 教員が感想を書かせる理由

1. () の代わりに使う。
2. 自分の授業に対する学生の()を見る。
3. () が不足した点を知る。
4. 思いがけない()を得る。
5. ただ単に読むのが()。
6. 時として()になる。

練習4 感想のルール

1. 筆記具は?	
2. 書く量は?	
3. 文末表現?	
4. 段落は?	
5. 一人称は?	
6. 下書きは?	
7. 注意点は?	

実習7 第2講のノート(次頁資料1)を見て、黒以外のペンで

1. 「よくわかったこと、おもしろかったこと、なるほど思ったこと」に◎を書きなさい。
2. 「よく理解できなかったこと」に波線と?を書きなさい。
→ [] になる!
3. 余白に「もっと知りたいと思ったこと」を書きなさい。
→ [] になる!
4. 上記1～3をもとに、もう一度「第2講の感想」を書こう。

「第2講の感想」を提出

(第4講別紙)

点線で切り離して実習4で使用する

A ちびまる子ちゃん

(4コマ漫画をばらばらにしたもの：著作権の関係で不掲載)

B 名探偵コナン

C 古畑任三郎

[] 論：意外な犯人! ・その結果、犯人は意外な人物であることがわかる	[] 論：犯人はやっぱり! ・その結果犯人は松嶋菜々子と考えることが正しいとわかる
[] 論：コナンが推理する ・いろいろな可能性を考える ・多面的に検証する	[] 論：事件発生! ・犯人は松嶋菜々子だ ・観客に犯人が知らされる
[] 論：事件発生! ・犯人は誰だ?	[] 論：古畑が推理する ・いろいろな可能性を考える ・多面的に検証する

第4講 論述式テストの答え方 —— 学術的文章の構成 ——

作業4 文章の構成にさまざまなタイプがあることを知ろう

1. 別紙A,B,Cの漫画、説明を1コマずつ切り離して正しい順番に貼り付けましょう。
2. それぞれのタイプの特徴について考えましょう。学術的文章の構成としてもっともふさわしいのはどのタイプでしょうか。

A ちびまる子ちゃん [4コマ漫画] (中日新聞2009年3月29日朝刊より)

1	起 : 物語が始まる
2	[] : 物語が続く
3	[] : 話題が転換する
4	[] : 物語は意外な結末に

B 名探偵コナン []
(『劇場版名探偵コナン 瞳の中の暗殺者』2006年小学館より)

漫画
(著作権の都合で不掲載)

1
2
3

C 古畑任三郎 []
(フジテレビ webpage 古畑任三郎ファイナル「ラスト・ダンス」より)

webpage上の写真
(著作権の都合で不掲載)

1
2
3

論述式テストの基本

1. 講義の内容が理解できていること
2. 問題文の指示に従うこと
3. 単純な構成にすること

論述式テストは、講義の理解度を見るためのものですから、まず講義の内容が理解できていることが大切です。そこに書くことは、講義された内容であって、自分の意見を述べるものではありません。（「自分の意見を述べよ」というタイプの問題の時は別。）
問題文をよく読んで、構成を考えてから書き始めましょう。

★ワンポイントアドバイス 論述式テストの構成

序論：何について述べるのかを述べる。
または、結論を一言で述べる。（量の目安は1割）

本論：説明や理由などを詳しく書く。（8割）

結論：もう一度結論を繰り返す。（1割）

練習5 論述式テストの基本ルール

1. 筆記具は？	
2. 書く量は？	
3. 文末表現？	
4. 段落は？	
5. 一人称は？	
6. 下書きは？	
7. 注意点は？	

実習8 論述式テストで次のような問題が出されました。

学術的文章の構成はどうあるべきか。
「本格ミステリー」「倒叙ミステリー」を例にあげて具体的に説明しなさい。

上の問題に解答する準備として「論述式テスト構想シート」を完成しなさい。

1. 記入日、学籍番号、氏名を書く。
2. (1)に、第一段落を書くこと（＝結論）を簡単に書きなさい。
3. (2)に、第二段落を書くことを書きなさい。
4. (3)に、第三段落（＝(1)に書いたこと）を書きなさい。

* 「論述式テスト構想シート」を提出 *

実習9 「論述式テスト構想シート」をもとに下書きをしなさい。

1. 解答用紙を見て第一段落、第二段落、第三段落がどれくらいの量になるかを考える。
2. 必要に応じて構想シートにない内容や接続詞を補う。
3. 筆記用具は自由。

* 「下書き」を提出 *

実習10 「下書き」をもとに清書をしなさい。

* 「清書」を提出 *

論述式テスト構想シート

記入日	年 月 日	年 月 日
学籍番号	氏 名	
(1) 第一段落 (序論) (＝結論)	学術的文章の構成は、	
(2) 第二段落 (本論)	本格ミステリー	物語の例
		構 成
		特 徴
	倒叙ミステリー	物語の例
		構 成
		特 徴
(3) 第三段落 (結論) (＝(1)を繰り返す)		

**第5講 授業の課題レポート
――注・引用・参考文献の作法――**

対象となる文章：授業の課題レポート
(あらかじめ課題が決まっているもの。
課題が自由な場合については第6講で学ぶ)

ゴール：前講で各自が作成した論述式テストの解答に注、引用、参考文献を加えて授業の課題レポートとして提出する。

作業5 論述式テスト（テスト時間内に完成させるもの）と授業の課題レポート（締め切りまでに完成させて提出するもの）の違いは何でしょうか？
空欄を埋めなさい。

論述式テストと授業の課題レポートの違い

	論述式テスト	授業の課題レポート
1. 筆記用具	インク 又は鉛筆	おすすめは ()
2. 書く量	()の大きさに合わせる	()される。 「レポートひな形で○枚以内、以上、程度」、または「ひな形を使って○字以内、以上、程度」など。
3. 下書き	メモ程度。 下書きと清書の時間配分を決めることが重要。	()に向かう前に全体の構成を考えてメモしておく。
4. ()	不要。	あると効果的。 本格的なレポート・卒論には必ず必要。
5. ()		
6. ()		

授業の課題レポートの基本

1. 講義の内容が理解できていること
2. 問題文の指示に従うこと
3. 単純な構成にすること
4. 注、引用、参考文献を明示すると効果的
→テーマに関して「自分で調べた」証拠になる

授業の課題レポートは、講義の理解度を見るためのものですから、まず講義の内容が理解できていることが大切です。そこに書くことは、講義された内容であって、自分の意見を述べるものではありません。(「自分の意見を述べよ」というタイプの問題の時別)

注、引用、参考文献をつけると、テーマに関して調べたという努力が伝わり、評価されます。問題文をよく読んで、構成を考えてから書き始めましょう。

★ワンポイントアドバイス <レポートの構成>

本文 序論：何について述べるのかを述べる。
または、結論を一言で述べる。(量は本文の1割)
本論：説明や理由などを詳しく書く。(8割)
結論：もう一度結論を繰り返す。(1割)

注 本文の展開に直接関係ない事項、本文に書くところやごちゃごちゃしそうなとき、用語の解説などをしたときに使う。

参考文献 レポートの最後に、このレポートを書くにあたって参考にした本などを書く。

練習6 レポートの作法——引用、参考文献

	ねらいは何？	どうやって書くの？
1. 注 → () とも言う。	・読みやすくなる。 ・時間のない読者は飛ばせる。	・ページの下に書く ()と文末に書く ()がある。 ・ワードの機能を使うと驚くほど簡単。
2. 引用 → () や () とは全く違う。	・レポートに書いた内容をもっとも だと思ってもらうために使うテク ニック。 ・ () 性が高まる。	・他の書物などに書かれていることを そのまま写す場合と要約する場合が ある。 ・どの本の何ページに書かれているか を明記する。
3. 参考文献 → () とも言う。	・どれだけ勉強したかを示す。 ・まずここから読み始める教員も多 い。	・著者名の五十音順。

実際のレポート執筆においては、どのような注をつけるか、どの本から引用するか、どのようにして参考文献を探すかということが最も重要な作業です。(以上については第6講で学ぶ。)ここでは、それらは飛ばして、具体的な作法を学びます。

実習11 授業のレポートで次のような課題が出されました。同じテーマで書いた論述式テストの答案[清書]に注、引用、参考文献を加えてコンピュータで印刷して提出しなさい。

学術的文章の構成はどうあるべきか。
「本格ミステリー」「倒叙ミステリー」を例にあげて具体的に説明しなさい。
レポートひな形で1枚以内とします。

1. 論述式テストの答案[清書]中の「学術的文章」「本格ミステリー」「倒叙ミステリー」に注番号をつけます。これらの言葉が初めて出てきた場所の右肩に、赤ペンなどで1)、2)、3)と記入しなさい。
2. 「注の内容と参考文献のリスト」を完成しなさい。
2-1. 記入日、学籍番号、氏名を書く。
2-2. 例にならって、「注の内容」を書く。今回は注をつけた語句の説明が注の内容になる。資料から引用(つまり写す)もしくは要約する。資料のどの部分を引用(または要約)するかは自由。
- 2-3. 例にならって「参考文献リスト」に『海外ミステリー事典』を加える。

* 「注の内容と参考文献のリスト」提出 *

実習12 サンプルを参考にして、以上をコンピュータで入力します。

* 印刷して提出 *

注の内容と参考文献のリスト

記入日	年 月 日		年 月 日
学籍番号	氏名		
注の内容	(1) 学術的文章	レポートや卒業論文のこと。学習技術研究会(2006:105)によれば、レポートとは、「調査や研究の結果わかった事実と、それに基づく自分の意見をまとめた報告書」。	
	(2) 本格ミステリー	権田(2000:326)によれば、 著者名(出版年:引用したページ)	
	(3) 倒叙ミステリー		
参考文献リスト	学習技術研究会(2006)『知へのステップ改訂版』、くろしお出版、東京。		
著者名(出版年) 『書名』、出版社、 出版地。			

受理日 平成22年4月2日

